

自己紹介

語り手..それでは皆様よろしくおねがいます。

ひめり..よろしくお願います。

竜胆..よろしくお願います。

ゴンタ..はぁーい。よろしくお願います。

語り手..それでは早速簡単に、自己紹介をお願いします。

竜胆..あー、おれの名は竜胆だ。正体は狐。一応は、この森宮の土地神ということになっている。普段は白津饅の社にいるから、用があったら訪ねてこい。話くらいは聞いてやるぞ。

語り手..人間に化けると、白髪に藍色の着物、という目立つ格好が目印ですね。

竜胆..童に見えるだろうが、これでもそれなりに長く生きとるからな？

ひめり..わたしは自他共に認める竜胆の永遠のライバル、ひめりよ！ 夢は大きく『釣鐘山の大将』...でも、山では竜胆が威張ってるから、とりあえず竜胆をやっつけてやるのが今の目標ね！

ツユクサ..そうなのか？

竜胆..言わせとけ。

ひめり..いつもは山にぐる人間や竜胆にいたずらして遊んでるわ！...たまに失敗するけど、本当にたまによ！ 人間に化ければ小さい女の子だけど、見た目で判断しないことね！

ツユクサ..あちの名前はつゆくさいうよ。こないだまで山でくらしてたよ。けど、おとさんもおかさんもおにちゃんもしんだよ。おとさん、あちに言ったよ。『ひとりなったら山おろろ』だからね、あち、山おりたよ。

語り手..それで、竜胆のところに居候することになったんでしたね。

ツユクサ..そう。山おりたら、においたからそっち行っちゃったよ。そしたらおししようさんにあった。いまは、おししようさんのとこで生きてるよ。

ゴンタ..オイラは、由緒正しい化けムジナのゴンタロウ！ ご飯が大好きで、最近ニ

ンゲンの食べ物がすんごお美味いことがわかって、よく人里に降りたり、山登りをするニンゲンを驚かしておやつをちょっと貰ったり...

語り手..出身の山は、ひめりとは同じなのかな？

ひめり..わたしは、生まれも育ちも釣鐘山。

ゴンタ..ううん、隣の山ってことにしておくよ。あ、ニンゲンに化けた時は甚平姿で坊主頭の子供だよ。ちょっとお腹が丸いけど気にしない！

語り手..さて、早速ですが皆さん、それぞれどんな『つながり』を持っているのでしょうか？

竜胆..まずおれは、露草は直接的に『保護』してる。

ツユクサ..おししようさんはすごいいよ。あちもおししようさんみたいな立派なへんげになって、おししようさん手伝うよ。だから『憧れ』ね。

竜胆..そして、ひめりの一族とは縁が深いものだからひめりも『保護』。

ひめり..竜胆は目下のライバルだから『対抗』、その竜胆を慕うツユクサも、やっぱり同じく『対抗』よ！

ツユクサ..ひめりはいつもいたずらでみんな困らせてるよ。おししようさんにもいつも変なこと言って困らせてるよ。だから『対抗』。

ゴンタ..竜胆はいいひとみたいだから『好意』。ひめりはオイラよりも変化の術が上手いから『尊敬』にするよ。

竜胆..このひめりを尊敬する奴がいるとは...恐ろしいことよ。ともかくおれからも、ゴンタには『好意』で取っておこう。

ひめり..ふふふ、よくわかっているじゃないゴンタ！ わたしからは『好意』で取ってあげるわ！

語り手..尊敬するひめりに会いに、わざわざ隣の山からこっちまで？

ゴンタ..ううん...もしかしたら恋心とかもあるのかも。面白そうだから、今後『恋』に発展するかも、ってことにしちゃおう！...いい？

ひめり..しかし、わたしがそんなに上手く行くとは思わなよ！ 恋何それおいしい！

ツユクサ..こいって何？ ごんたは、あちの知らないことたくさん知っててえらいよ。だから『尊敬』するよ。

ゴンタ..ツユクサもいいひとみたいだし、オイラも『好意』で取っておくよ。  
語り手..これで全員、お互いの『つながり』が決まりましたね。それでは早速、最初

の場面、いってみよー！  
一同…おー！

〽 場面1. 白津饌神社・昼 〽

語り手…さて、それはある休日の白津饌神社…お昼前のことであります。偶然にも皆さんが神社の周辺にいる時の話ですが…それぞれ、どんな事をしてるのでしようか？

ツユクサ…あちは掃除してるかね。みみとしっぽ出たまのへんげするよ。

語り手…さすがに掃除用品は、人間の形をしてるでしょうからねえ。

竜胆…おれは、そうだな…縁側で茶でも飲んでるかな。茶を飲む程度なら、体裁は取り繕わなくても良いだろう。おれも耳と尻尾は出しておこう。

ひめり…じゃあ、今日も今日とて竜胆にちょっかい掛けに行くかな。こう、耳と尻尾が出たまま、草むらに潜んで竜胆のお茶を虎視眈々と狙う。

ゴンタ…オイラはいつもの甚平姿の子供になって、その辺に落ちてる、底に欠片が溜まってるだけのポテチの袋を覗いているよ。

語り手…ゴンタはやっぱり、ひめり目当てなのかな。

ゴンタ…ああ！ そういえばきつとそうだ！ それでちょうど近くに来たところ。

語り手…お前、恋に発展させたあと成就させる気全くねえだろ！

ひめり…くっ、なんてことだ！ この先は、ゴンタ次第だな！

ツユクサ…「おししようさん、お昼、なにするよ？（はたきで筆筒の上を払いつつ）」

ゴンタ…「お昼…かあ。はあ、ぽてちは空っぽだし、おなか空いたなあ」

竜胆…「そうだな…箸の使い方はもう危なげなく覚えたようだから、そろそろ文字の勉強でもするか」

ツユクサ…「もじってどんなごはんよ？」

ゴンタ…もじって、ごはんを掬うものだったっけ？

竜胆…「文字はまだ早い…」 昼にやる事じゃなくて昼飯のことだったか。

ひめり…「けけけ、呑気にお茶なんてしばいていられるのも今のうちよ…」 竜胆に向けて飛びかかれる瞬間を狙っている。

ツユクサ…ひめり見つけたいよ。ひめりが『けもの』3で隠れてるなら、『想い』1つかって『けもの』4で見つけられないかよ？

ひめり…わたしは草むらの影に隠れているから、簡単に見つけられない！ まさか見つかるとは思っていないから、『想い』は使わない！

語り手…ツユクサは、ひょこひょこ草むらの上で左右に揺れる、縞々のしっぽを発見しました。

ツユクサ…「…おししようさん。きょうのお昼、たぬき汁ね（べいっとはたきを投げ出して）」 だだどと走って、尻尾にかじりつこうとしてみているかよ？

竜胆…「…うん？」

ひめり…「…竜胆め、あのお茶とお菓子を奪って泣かせてやるわー！」 ここで噛み付かれない理由はないな。 ばっちこーい！

ツユクサ…はしるるときにヒトのからだ難しいから、けものにもどるよ。ガブッ。

ひめり…「あっ痛あああああ!!」 まさに飛び上がるくらいに。

ゴンタ…「ああっ——!?!」 ひめりが!!

ツユクサ…「…たぬきとったほ（ももも）」

ひめり…「うおおお！ 離さないよおお！」 涙目でツユクサの頭をベシベシ。

ゴンタ…「た、たぬき食べてもおいしくないよ！」 慌てて駆け寄って止めに入るよ！

ひめり…「そうよちくしょー、わたしの尻尾は食べ物じゃないわよ」 ベシベシ。

竜胆…「露草…そこまで。もうよい」

ツユクサ…「ぐるる…」 よだれをだらだらしながら口はなすよ。「なんだ、ひめりかよ。たぬきだとおもったよ」

ひめり…「ううう…おお、痛ア、歯型がついてるしい…」

竜胆…歯型で済んだか。それは露草の加減の上達を褒めねばならん。

ツユクサ…「けれどひめり、あぶらのつてきておいしそうよ。すこしかじらせてほしいよ」

ゴンタ…「かじっちゃだめえ!! 食べるなら狸じゃなくて、ニンゲンのお菓子がおいしんだよ！」 おどおどしてる。オイラの方が油乗ってると思うから…

ツユクサ…「こんたとひめりの間で、視線をチラチラ往復させてるよ。「うー…」（よだれだらだら）」

ゴンタ…「ガクガクブルブル」

竜胆…「ひめりは相変わらず学ばんな。社の周りで妙な真似をすればこいつが出てくると言っとるだろ」

ひめり…「す、好き勝手言ってくれるわね……。ゴンタ、ツユクサのやつを倒しちゃいなさい！ その際に竜胆をやっつける！」

ゴンタ…「わ、わかったあ！」

ひめり…「おお、本当に戦っちゃうんだ！」

ゴンタ…「なんだかこのままじゃ、オイラまで危ない気がしてきたから！」

ツユクサ…「このためきならたべていいのかわ？ うー……！」がぶっ。

ゴンタ…「ぎゃー食べられるー！ オイラおいしくないよー!？」

ひめり…「ゴンタ……あんたの勇氣は忘れないわ！」

竜胆…「露草」

ツユクサ「うー……（口を離す）」

竜胆…「あー、うるさい。このやりとりを昔から今まで何回聞かせるつもりだ。いいからおまえら、揃って草むらから出てこんか」

ひめり…「言われなくても出て行くわ！ さあ、おとなしくそのお茶とお菓子をこっちに渡すのよ！」

竜胆…「欲しいなら最初からそう言え。社に上がって手を洗って来い」

ひめり…「ふふふ、最初からおとなしくそうしていれば無駄なぎせーを産まずにすんだのよ」とか言いつつ、手を洗いに行きけ。

ツユクサ…「おししょうさん、さきに仕掛けてきたの、このためきのほうよ？」

竜胆…「そうだな。だから、次にこの周りで妙な動きをする狸がいたら、その時はお前の判断に任せる。……わかったかお前ら」

ツユクサ…「あちにまかせるよ」嬉しそうに尻尾を振りながらよだれをダラダラ。

ゴンタ…「ぼ、ボクは妙な狸じゃないもん！」

ひめり…「え、何か言ったー？」洗面所から首を出しつつ。

ツユクサ…「あち、もう一度ヒトのからだにへんげして、「ひめり、いたずらしたら食べるよ」って言うてるよ。」

ひめり…「ふん、逆に食べてやるわ！」

語り手…「そんなところで誰か、『けもの』4で判定を。」

竜胆…ん。ではおれが『想い』2点使って成功しておくか。

ひめり…「わたしも1点つかって4にする。」

語り手…「ひめりと竜胆は同時に、石段の下から誰かが駆け上がったくる足音を聞きつけます……たぶん、子供の足音だね、そしてちょっと急ぎ目。」

竜胆…「……？」「一応変身しているし、隠れる必要は……無い、うむ、無い。」

ひめり…「……あれ、誰か来たみたい？」手を拭きつつ、外のほうを見ようかな。

ゴンタ…「どうかした？」オイラはちょっと後ろの方から、隠れ気味に眺める感じ。

ツユクサ…「あちは、それに気づかないよ。」

語り手…「白津饅神社に来る子供なんて、大抵は変化のを知ってる子に限られるのですが、実際ひめりと竜胆は知っている子ですね。以前一緒に不法投棄の犯人をやった8歳ぐらいの男の子、ダイキ少年だ。」

ひめり…「おお、彼か。」

ツユクサ…「あしらない。だれよ？」

ゴンタ…「知ってる人なの？」

竜胆…「少し前に手を貸してやった童だ」『秘密基地を守れ！』の回のことだな。

ひめり…「あ、なんだダイキじゃない。一体、どうしたのよ？」

ゴンタ…「もしかして、お菓子持ってる？」

語り手(ダイキ)…「お、お菓子どころじゃないよー！ 大変なんだよ！ お化けが出たんだよー！」

ひめり…「お化け!? わ、わたしじゃないわよー」お化けなんて言うから、またいたずらがバレたのかと思っただわ……。

ゴンタ…「……オイラも、最近はやってないかな？」お化けになってお菓子を失敬した心当たりなら、何度かあるけど。

竜胆…「……それで、何だ？ お化けだと？」話を聞いてやるから、まあ上げれ。

ツユクサ…「あがるまえに、て洗わないとダメよ。おかし出せないよ」

語り手…「ダイキはツユクサに言われるままに手を洗ってから、落ち着いて話をしよう。」

ひめり…「あ、ゴンタもお菓子を食べる前に手を洗うのよ！」無駄に胸を張る。

ゴンタ…「おかしー！」お菓子のためなら、喜んで手を洗うよ！